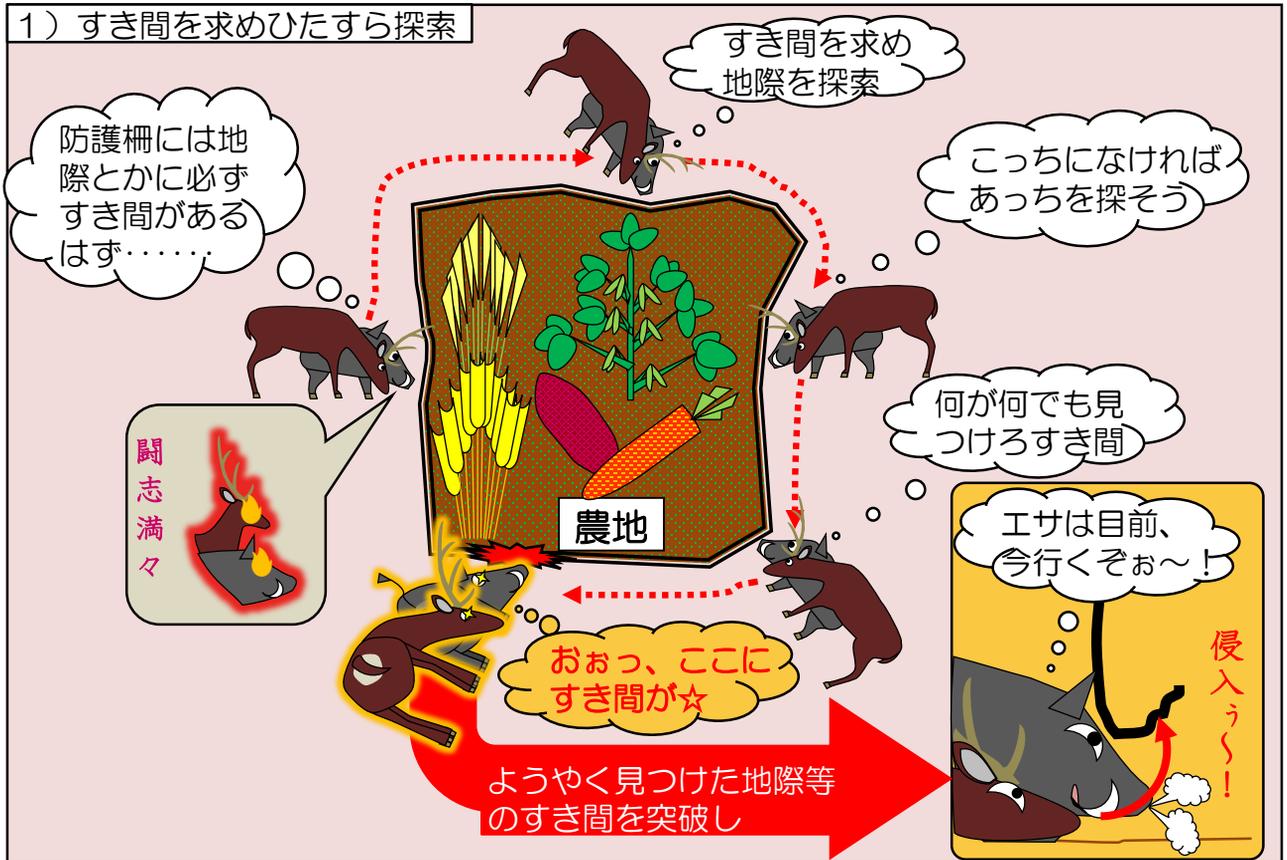


防護柵、どうして管理が必要か？

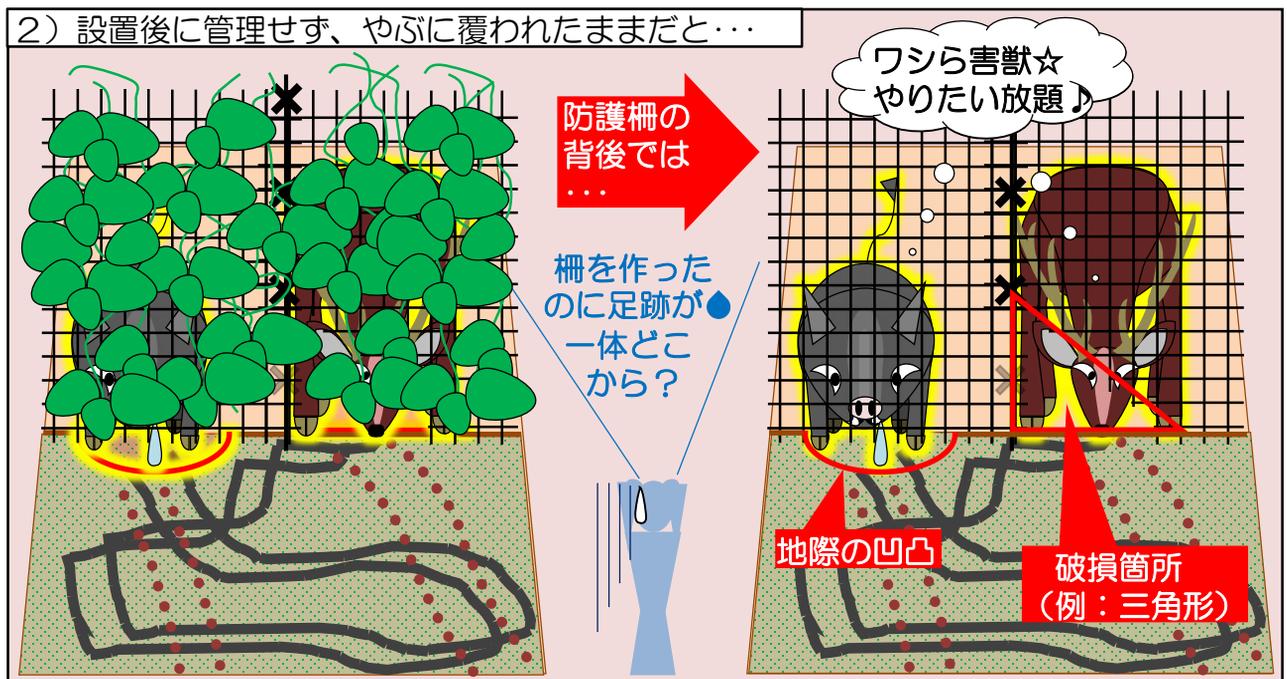
(獣害防止の効果は、防護柵設置後の扱い方で差が出ます！)



1. 害獣の防護柵攻略法～徹底したすき間探し、やぶも最大限活用～



・害獣は侵入のきっかけとなる地際の凹凸やワイヤーメッシュ等防護柵の緩み等によるすき間を、**見つけるまで何時間でも探し続けます。**



・地際の凹凸や継ぎ目の緩み等が原因のすき間、害獣が柵を壊す等による侵入箇所を特定できず、補修も被害防止も(害獣を確認することも)困難です。

害獣を侵入させない管理は裏面に

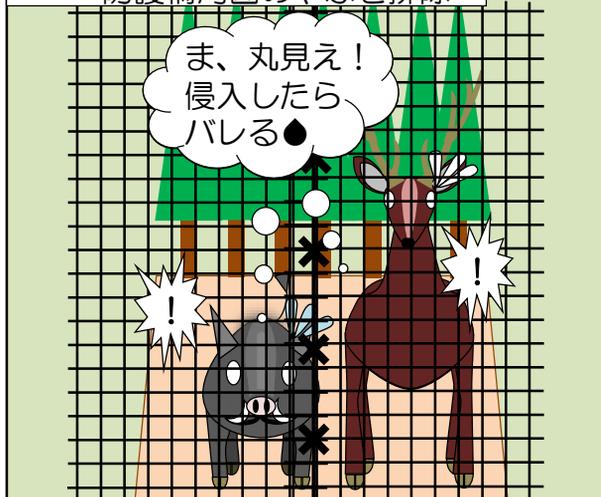
2. 管理が支える防護柵 ～適切な設置と併せ、柵の効果も長続き～

(1) 防護柵の地際部分を、傾斜や凹凸等に合わせすき間なく設置



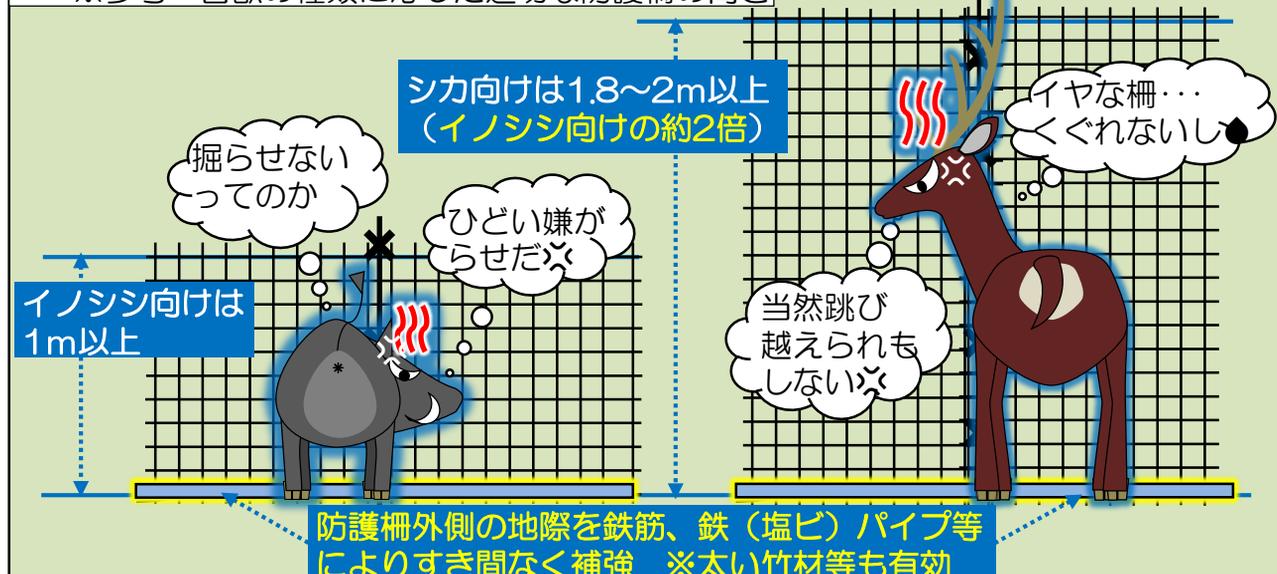
• すき間がなければ、害獣は防護柵の地際を掘れず侵入も困難になります。

(2) 定期的草刈、除草剤散布で防護柵周囲のやぶを排除



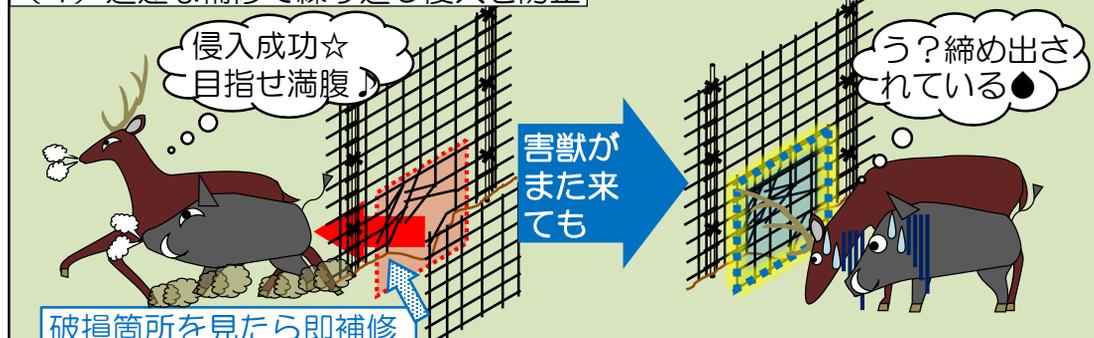
• やぶを排除することで、害獣が侵入した箇所や地際の状態が一目で分かります。

(3) 地際の補強（一例）によりすき間も遮断
※参考：害獣の種類に応じた適切な防護柵の高さ



• すき間なく設置した地際を補強することも、防護柵の効果を高める上で重要です。
※防護柵の高さは、出没する害獣の種類に応じ適切なものとしましょう。

(4) 迅速な補修で繰り返し侵入を防止



• 害獣は侵入または脱出するため防護柵を壊した箇所を繰り返し利用します。
• 破損箇所を見たらすぐ補修することが、被害を最小限に抑えることにつながります。

お問合せ先：大分県中部振興局

• 農業被害の調査、対策活動の支援は→生産流通部各班

(代表) 097-506-5796

• 防護柵関連、狩猟、林業被害対策は→農山漁村振興部森林管理班 (直通) 097-506-5749